

I 事業の概要

本校は、町内の一部が海に面している岩泉町の中にあつて内陸に位置するため、平成23年の東日本大震災による直接的な被害はほとんどなかった。また、その当時の記憶も5年生以下はほとんどない状態である。しかし、平成28年の台風10号による災害では、家屋の全壊や浸水、道路の損壊による通学困難のため避難所や親戚宅での生活を強いられるなど大きな被害を受けた地域もある。

このことから、震災学習を通して自然災害への心構えや防災への意識を高めることが必要である。

(1) 事前学習

ア 震災学習列車オリエンテーション

イ 震災まわし読み新聞作り

(2) 震災学習列車

(3) 事後学習

ア 防災新聞作り

II 取組の概要

(1) 事前学習

ア 震災学習列車オリエンテーション

震災学習列車利用区間（久慈～田野畑）及び宮古市田老地区の震災当時の様子や被害の状況、復興に向けて取り組んでいる現在の様子について、スライドを使いながら事前学習をした。



イ 震災まわし読み新聞作り

同じ縦割り班の4～6年生でグループを作り、グループ毎に東日本大震災時の様子について伝える新聞記事を読んだ。それから、それぞれが選んだ記事について紹介し合い、どれをトップ記事にするか、どのような見出しにするかをグループで話し合い、1つの新聞にまとめる学習を行った。



(2) 震災学習列車

ア 震災学習列車乗車（三鉄ガイドによる説明）

久慈駅～田野畑駅間を乗車し、三鉄ガイドから説明を受けた。防潮堤を造る際には、安心感を生まないため、津波が来たらすぐ逃げるという気持ちを忘れないため、震災の津波高よりあえて低く造っていることや、野田地区は地形の影響でより被害が大きくなったことなどを学んだ。



イ 防潮堤等見学（防災ガイドによる説明）

「学ぶ防災ガイド」を活用し、田老独自の防潮堤の構造や、観光ホテルから撮影された津波の実際の様子について説明を受けた。



(3) 事後学習

ア 防災新聞作り

事前学習、当日の震災学習列車活用スクールを含め、学んだことを新聞にまとめた。



イ 参加した児童・教員の感想

- ・この震災列車活用スクールで震災を未来につないでいこうという人々の思いを知ることができました。私も忘れることなく自分なりに未来につないでいこうと思いました。(6年女子児童)
- ・被災した田老などを見ました。そこで共通していたのは「復興に向かって努力する姿」です。そういう人を応援し、未来へと向かう姿をこれからの自分の生き方につなげたいです。(6年女子児童)
- ・今回の活動は、津波の悲惨さ、恐ろしさを改めて知る機会となった。ガイドの説明や実際に見た映像は避難の大切さ、命の尊さを教えてくれると同時に、同じような犠牲を出さないために何が必要か学ぶ大変貴重な機会であった。(本校6年担任)
- ・震災の記憶がほとんどない児童にとって、大変有意義な活動であった。学校では震災の記憶の風化が懸念されており、このような機会を活用しながら震災について語り継ぐ活動を進めていくことが防災教育を進めるうえで重要になってくると思う。今回の学びを今後の復興教育に活かし、児童の「生きる力」につなげていきたい。(本校担任外)

Ⅲ 取組の成果と課題

(1) 成果

- ・事前に新聞を活用して、震災当時の様子や、見学箇所の被災状況を把握してから乗車したことで、被害や復興の様子をより実感できた。
- ・ガイドによる説明を受け、防災への意識を高めるとともに、沿岸市町村の防災、復興の取り組みについて学ぶことができた。
- ・学んだことを新聞記事にまとめることで、震災に対する自分の考えを深めることができた。

(2) 課題

- ・今回は「体験的な活動」としての学習を深めることができたが、来年度以降、今回のような有意義な活動をどのように工夫していくか。